

県土強靱化対策特別委員会会議記録

県土強靱化対策特別委員長 近藤 和義

1 日 時

平成28年12月7日（水） 午後3時42分から
午後3時57分まで

2 場 所

第3委員会室

3 出席した委員の氏名

近藤和義、元吉俊博、吉富英三郎、古手川正治、毛利正徳、三浦正臣、尾島保彦、
玉田輝義、久原和弘、堤栄三、森誠一

4 欠席した委員の氏名

な し

5 出席した委員外議員の氏名

な し

6 出席した執行部関係の職・氏名

な し

7 会議に付した事件の件名

別紙次第のとおり

8 会議の概要及び結果

(1) 報告書（案）について協議した。

9 その他必要な事項

な し

10 担当書記

政策調査課調査広報班	主幹	内田潔
政策調査課政策法務班	主査	熊野彩
議事課委員会班	副主幹	大久保博子

県土強靱化対策特別委員会次第

日時：平成28年12月7日（水）本会議終了後

場所：第3委員会室

1 開 会

2 協議事項

(1) 報告書（案）について

3 その他

4 閉 会

会議の概要及び結果

近藤委員長 ただいまから委員会を開きます。

本日は、本委員会の報告書の検討を行います。

先日の委員会で報告書の素案を協議しました。その後、各委員からの意見集約、執行部の確認期間を設けております。

本日、お手元に配付しております報告書案は委員からご指摘のあった内容や表現の見直しなどを行った案となっています。

それでは、内容について事務局より説明をします。

〔事務局説明〕

近藤委員長 事務局から説明が終わりました。何かご質問がございますか。

堤委員 (2) の新幹線整備による効果の享受の1番最後に、こういう取り組みが必要であって、いろいろ見直しをしながらその方向を進めていく必要があると、あるいはその方向を進めていくと、表現の中でその方向を検討していく必要があるというふうに私はしたほうがいいのかと思います。

事務局 検討をするということの表現の修正でございますか。

久原委員 今について、上の行に、東九州新幹線は慎重に検討する必要があるとまで入れちゃうのやけんの、そこまで入れる必要はないんじゃないか。

堤委員 私の意見としては、ぜひ入れてほしいです。

近藤委員長 堤委員の意見がございましたけれども、県土強靱化対策の提言でございますので、何もかも引っ張り剥がすような話にはならないと思います。本委員会の大方の意向でありますので、これでご了解をいただきたいと思います。

毛利委員 (1) の本県の将来を見据えた方向性の最後に、慎重に検討する必要があるという表現の、慎重に検討とはどう捉えたらいいのか。

元吉副委員長 表現としてはおかしい。

堤委員 俺が説明するわ。これは俺が提言をしたけんね。そのときの発言の趣旨は、最初に検討した骨子案から、事実関係を書いた中間報告というか報告書ができたときに、私は推進ありきの考え方がないわけだから、検討するという中には当然廃止も含め、推進も含めて検討していくとする、ということです。

毛利委員 それで、前回も私言ったんですけど、期成会が設立されてスタートしております。期成会が官民一体となって、整備新幹線を整備推進すると。各省庁にも陳情に行っております。それなのに、今のことを踏まえると、廃止にするということはおかしいんじゃないかなと思う。

そこのところはきちっとここで確認した上でやらないと。なんと言うんかな、この案では整合性がないと思います。

久原委員 いいかな。上から3行目のところ見て。2行目かな。本県が取り残されることなく、本県の将来を見据え、地域間競争を勝ち抜くためにも社会基盤整備が必要であり、東九州新幹線もその役割を担うことが期待される、とある。

やっぱりここにひとつちゃんとつくるべきやということを書いちょうのやけん。その上でいろんなことを通じて心配することがあるから、そこらは慎重に考いや、ちゅういうことやけん。大体いいんやないんか。

元吉副委員長 やっぱりトーンが下がり過ぎる。慎重に進めていくということであればわかるけど。

毛利委員 検討していくということの中身が何か。何を検討していくにするのか。検討する中身をきちっと確認する。何を検討していくかということですよ。

元吉副委員長 いいですか、東九州新幹線については、この最後にね、慎重に検討する必要があるとすることは、後ろ向きにポーンとトーンが一遍に下がり過ぎるんです。ついては、推進を念頭に置きながらも慎重に検討していく必要がある、としてはどうか。

久原委員 なかなかいいんじゃないか。

堤委員 それじゃ、まさに推進じゃん。検討は必要ない。推進を前提に検討していくんだから。つまり、推進ありきだから。検討は後段にくるわけだから。

久原委員 それでいいんじゃないか。

堤委員 それではおかしいと俺は言っている。

毛利委員 検討の意味がよくわからない。私の意味の検討というのは、先ほど説明した中身の検討。堤委員はしっかり検討や、ということですが、そういうことであれば賛同できませんよということを行っているわけで。

近藤委員長 ほかの皆さんの意見も聞いてみたいですが。

元吉副委員長 慎重に検討していく必要はないのか、そういったら、それは多少必要がある。だからといって、慎重に検討していく必要があるで終わったら、一遍にトーンが下がる。私が言うように、推進を念頭に置きながらも、慎重に検討していく必要がある、としてはどうか。慎重に検討していく必要があるということは、100%推進ということにはならないかもしれないよ、という含みも残しているということで。折衷案でひとつよろしくをお願いします。

毛利委員 それで、今の元吉副委員長の意見をいれるんであれば、推進を念頭にをいれるんであれば、慎重に進めていく必要があるでいいんじゃないですか。

元吉副委員長 進めていくでもいいし、検討していくでもいいんじゃないか。

尾島委員 ここ提言じゃきな。ここ書いちょう人の提言じゃきな。執行部とかの考えじゃないけん。

久原委員 どげ一すりゃいいか、言ってみ。だからその意見を。集約しよったら。中をとってどうしたらいいか言ってみ。

毛利委員 あの時の検討はこうやったんですよと、後から言われて、賛同したやないかとか言われるようなことにならないように。

元吉副委員長 慎重に進めて行くでもいいな。その方向性を進めて行く必要がある。方向性をどうするか進めていく。いいとか悪いじゃなくて。

久原委員 それやったら、進めて行くのほうがいいんじゃないか。

堤委員 それやったら私は賛同せん。報告書から名前を除外して。それはしょうがない。僕の名前を出すということはその言葉を100%受け入れることになる。さっきの質疑と全然違ってくることになる。だから、その場合は、報告書から名前を外して。外すのは別

に問題ないやろ。外れれば皆さん好きなように考えればいい。

久原委員 まあ待てや。もっといい意見があるやろ。それぞれ意見出してもらえばいいやろ。提言やから。みんな一致がいいやろ。

堤委員 そんないい意見があればいいけど。

近藤委員長 いろんな意見もあるみたいですけど、これからの地域間競争、新幹線がなければ、大砲を持たんで戦争するみたいなものですよ。そういうことから考えればね、やっぱり慎重でも進めていく必要はあるんですよ。

堤委員、委員会としての大勢の意見にしないと。僕の意見が問われておるんなら、委員会としてはやる方向かと。

堤委員 いや、やるのではなくて、その場合は名前は外して。前に、かなり前に、過去ありましたよ。報告書に名前を入れてないですよ。

さっき委員長が言いよったけど、大砲は撃たないで。調査報告書をよく最後まで見てみて。本当に今日もちょっと言ったけど、いろんな課題があるんですよ。課題が。まず、人口流出ですよ。ストロー現象ですよ。そうするとね、人口が大分県に来るんじゃないかというそんな甘い考え方は成り立ちません。人口減少にもっと歯どめがかかなくなってしまう。だから新幹線の問題というのは、本当にその検討をしていけないといけないという考え方になる。

毛利委員 報告書はきょう決めないといけないんですか。

事務局 協議の時間が今後とれにくいことを考慮しますと、きょう決定していただく必要があります。

久原委員 逆に言うと、新幹線がないようなところは、住み手がなくなるわ。

堤委員 個人のいろんな考え方があるわけですよ。

元吉副委員長 そこはもう割り切らんとしょうがないね。

近藤委員長 あとはもう、まとめは委員長に任せてください。

それで、まとめた結果を堤委員に見てもらい、ご了承されなければ、堤委員が言われたように名前を落とします。

まとめについては、委員長に一任をお願いします。

古手川委員 委員長がおっしゃった方向で委員長に一任。

〔「異議なし」と言う者あり〕

久原委員 それを堤委員に見せて、悪いといえば名前をとらなければしょうがないねえ。

近藤委員長 では、先ほど言いましたように文言につきましては委員長に一任でよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と言う者あり〕

近藤委員長 それではそうさせていただきます。

報告書につきましては、今定例会の最終日に本会議場で報告を行い、議長に提出いたします。提言事項につきましては、閉会后、改めて、私から知事に提言を行います。

この提言事項につきましては、執行部が、平成29年第1回定例会で措置状況を本委員会に報告するようになっております。

この際ほかに何かございませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

近藤委員長 別にないようでありますので、これをもって本日の委員会を終わります。
ありがとうございました。